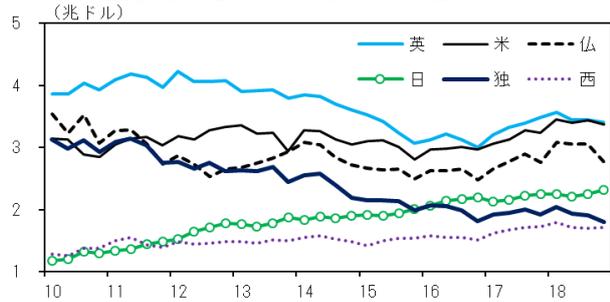


# 国際与信動向の国際比較：BIS 国際銀行統計の 銀行勘定推計値を用いた分析

日本銀行金融市場局 篠崎公昭、堀川卓己

BIS 国際銀行統計（国際資金取引統計および国際与信統計）は、国際的に活動する銀行を通じた資金移動や与信動向を把握するため、国際決済銀行（Bank for International Settlements: BIS）と各国中央銀行が作成する統計であり、国際金融に関する様々な分析に用いられている。日本銀行が BIS へ報告する本邦の計数には、銀行が委託者から信託をうけて資金の管理・運用を行う信託勘定の計数が含まれている一方、他の主要国の計数には信託勘定の計数が含まれていないこともあり、国際比較をする際にはこの点に留意する必要がある。しかし現在は、報告計数の内訳区分の関係上、信託勘定を除いた銀行勘定のみを統計を作成し国際比較を行うことは出来ない。そこで本研究では、齋藤・部山・塩谷（2018）を基に、その対象期間を延長するかたちで、一定の仮定のもとで信託勘定の計数を含まない本邦の計数を推計し、主要国籍銀行との比較を試みた。その結果、邦銀は近年、①国際与信を拡大させているものの、他の主要国籍銀行との比較では、国際与信残高の対総資産残高比率はそれほど高くないこと、②国際与信に占める米国向け与信の割合が高く、それに伴って通貨別では米ドル建ての割合の高いことが改めて確認できた。

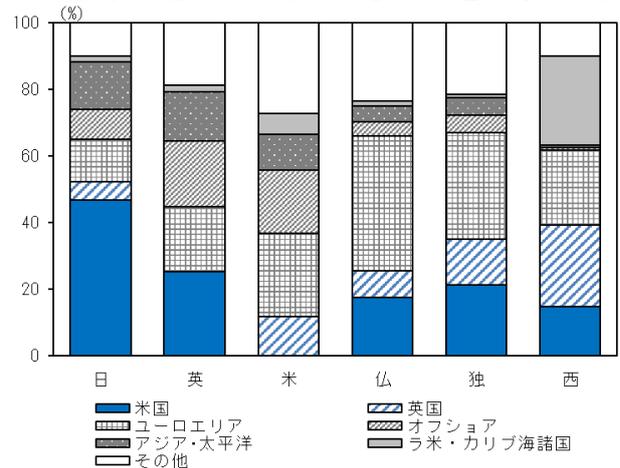
▽主要国籍銀行の国際与信残高



	国際与信残高(億ドル)	総資産(億ドル)	国際与信残高比率
日	23,165	131,071	18%
英	34,075	70,227	49%
西	17,092	39,066	44%
仏	27,756	76,684	36%
独	18,015	78,790	23%
米	33,705	151,674	22%

(注) 2018年12月末時点。

▽国際与信残高の向け先国・地域別構成



(注) 1. 2018年12月末時点。  
2. 「アジア・太平洋」および「ラ米・カリブ海諸国」は、同地域に所在する発展途上国のみを対象とする。

## 参考文献

齋藤香・部山和愛・塩谷匡介（2018）「銀行勘定の推計値を用いた BIS 国際銀行統計の国際比較」、日銀レビュー 2018-J-7